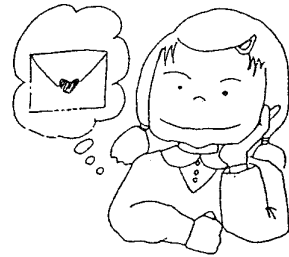


Q 4

登校刺激は、子供のどのような状態を目安にしながら与えればよいのでしょうか。その与え方とタイミングを教えてください。

A 不登校の態様はいくつかありますが、その中で、ここでは、「不安など情緒的混乱の型」に焦点を当てて、登校刺激の与え方とタイミングについて述べます。

-《基本的理解と対応1》.....
- 不登校の子供にとって、初期の指導・援助がその後の経過の大きな決め手になります。
 - 「登校刺激は与えないほうがいい」という考え方もありますが、子供が今、どの時期にあるのかを見極めながら登校刺激を与えることは必要です。
 - 登校刺激を与えるタイミングは、日中元気に過ごしている、明るい表情で会えるようになった、友人のことや学校のことなどを話題にするようになった、ときなどです。
-



《具体的な誘いかけの例》～回復の段階で～

- ・「AさんやBさんがあなたに会いたがっていたよ。
今度AさんやBさんと一緒に遊びに来てもいいかな。」
(間接的・直接的刺激)
- ・「みんなで飼っていたメダカが卵を産んだんだよ。見に来ない？」
(直接的刺激)
- ・「保健室の先生からの手紙預かってきたよ。返事を待ってるって言ってたけど、直接行って返事してみる？」
(間接的・直接的刺激)

-《基本的理解と対応2》.....
- 子供の状態、時期によって、学校への誘いかけは必要なことですが、再登校を急ぐあまり、無理な誘いかけにならないようにします。
 - 学期始めや学期末は、誘い掛けの絶好のチャンスです。子供の状態を見ながら、誘い掛けをするのが大切です。
-



《具体的な言葉掛けの例》～再登校を始める前の段階で～

- ・「元気が出てきたようだね。先生と一緒に夕方、学校の途中まで散歩を始めてみないかな？」
- ・「もうすぐ2学期も終わりだね。2学期の最後の1週間で学校に行けるといいね。」
- ・「君の座席は、仲良しのA君やB君の近くにしたいけど、それでよかったかな？」